

万歳図

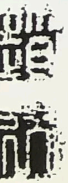
重要文化財
紙本淡彩
掛幅装一幅
二八・五×三〇・六
個人蔵

キ角が句に
万歳や門をのこさぬ鶴の粟
南郭先生の句
東方千萬古唯平安城
萬歳や踏かためたる京の土
蕪村

画面左に面をつけ扇を持って袖を振りながら舞う男、右に鼓を打つ男を描く。都の正月をことほぐ二人の漫才師の姿を即興的にとらえたもの。款記「擬八仙観筆意戲写於洛夜半亭中 蕪村」にある八仙観とは、蕪村が私淑する画家彭城百川のこと。画面右上に、俳諧の師早野巴人の師である宝井其角の句、人物の間にかつて蕪村がその門に学んだとされる儒者服部南郭の詩句、および蕪村自身の句を書く。蕪村の句は『落日庵句集』に、「万歳の踏かためてや京の土」「万歳の隈なく踏や京の土」として収められている。蕪村が夜半亭二世を継いだのは明和七年三月であるので、本図は明和八年以降の作と考えられる。
(下野)

落款は「蕪村」。

蕪村



七角の句に
万歳や門をのこさぬ鶴の粟
南郭先生の句

南郭先生の句
東方千萬古
唯平安城

萬歳や踏かためたる京の土
蕪村

擬八仙観筆
意戲写於
洛夜半亭中

蕪村